

研究報告

台湾における知的財産権の保護及び執行 国際的な知的財産権保護の必要性 ～台湾における知的財産権の実現手続の研究～

酒 井 一

1 知的財産権が脚光を浴びようになってすでに長い期間が経過した。かつては、工業所有権あるいは無体財産権と呼ばれた法分野である。この分野に関しては、わが国は後進国であった。知的財産権が注目されたひとつの契機は、アメリカが、懲罰的損害賠償制度やディスカバリーといった固有の制度を背景として、強力に知財保護を推し進めてきたことにある。

また、かつては知財侵害側にあったわが国企業が、侵害される側に立たされることも多くなり、とりわけ中国や韓国などのアジア諸国との関係において、知的財産権の保護・管理の重要性が認識されるようになった。

無体物である知的財産権は国境を知らず、知財紛争はしばしば国際的な様相を帯びる。すなわち、知的財産権については、とくに、一国内だけでなく、国際的な保護が必要なのである。したがって、諸外国における知的財産制度だけでなく、その保護制度についての研究が重要となる。

2 渉外の民事紛争の解決については、しばしば仲裁が利用され、その有用性は疑いが無い。しかし、渉外民事紛争処理及び知財保護の最も重要かつ最後の砦が司法上の救済、すなわち、訴訟及び執行制度であることも明らかである。わが国では、かねてから大規模庁では専門部において知財事件処理にあたってきたところであるが、東京地裁及び大阪地裁での実務を背景として、知財の管轄集中が規定され、さらに知財高裁が設置されることによって、さらに知財保護に注力されている。

3 わが国と隣接し、経済的にも関係が深く、わが国と共通の法的基盤を有する台湾の知財保護制度に関する研究の重要性については多言を要しないであろう。

昨年 11 月 26 日に、台湾の知的財産裁判所において、第一線で活躍され

ている張銘晃判事をお招きし、台湾における知財事件の理論及び実務について、とりわけ国際的知財保護・実現（執行・保全）の観点から講演していただいた¹⁾。本稿は、その成果である。

張判事は、台湾・中正大学で「国際的な知的財産侵害における国際裁判管轄」について研究をされ、さらには東京大学に留学され知的財産法について研究をされた。こうした経歴を鑑みても、台湾における知財保護、とりわけ国際的な執行・保全についての第一人者と評することができる。

1) 本講演を実現するにつき、多忙な張先生の招聘を許可頂いた許宗力・臺灣司法院院長に深謝する。

また、本講演会及び本稿は、文部科学省科研費の助成の成果である（課題名「多様な権利内容に応じた実効的な国際的権利保護制度の構築」、課題番号16H01990）。